

音楽科学習指導案

生徒 第2学年B組 男子18名 女子21名 計39名
指導者 教諭 嶋田 歩

I 題材名 『旋律をつかって箏を奏でながらうたおう』

II 題材について

本題材では、創作と音楽表現を関連付け、自分が選択した俳句のイメージにふさわしい旋律をつくり、演奏する。ここでは、学習指導要領の「A表現」(1)歌唱「イ 曲種に応じた発声や言葉の特性を理解して、それらを生かして歌うこと。」、(2)器楽「イ 楽器の特徴を理解し、基礎的な奏法を生かして演奏すること。」、(3)創作「ア 言葉や音階などの特徴を生かし、表現を工夫して旋律をつくること。」について、[共通事項]のうち音色、旋律(音階、音のつながり方)、構成などを窓口言葉や音階、箏の音色などの特徴を理解し、自己のイメージや音楽を形づくっている要素とかかわらせながら、それらを生かした旋律をつくり、音楽表現する。具体的には、箏で音を出して確かめたり、うたったりしながら、言葉の抑揚やリズム、箏の音色の特徴を知覚・感受したことを基に、自己のイメージにふさわしい音のつながり方や箏の奏法を試すことで思考力や判断力を深め、これらの特徴を生かした表現の工夫をして、自分なりの思いや意図をもって音楽表現する学習に取り組む。

III 題材の指導目標

- (1) 言葉や箏の音色や奏法、平調子による旋律、構成などの特徴を生かして、表現を工夫して旋律をつくる学習や自分のつくった旋律を、奏法を理解して演奏しようという学習に主体的に取り組ませる。
- (2) 言葉や箏の音色、平調子による旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、それらの特徴を生かして音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについての思いや意図、自分のつくった旋律をどのように演奏するかについての思いや意図をもたせる。
- (3) 言葉の抑揚やリズム、箏の奏法、平調子による旋律、構成などの特徴を生かした音楽表現をするために必要な、音の組み合わせ方、記譜の仕方などの技能を身に付けて簡単な旋律をつくらせる。
- (4) 曲種に応じた発声や箏の特徴を捉えた音楽表現をするために必要な、声の出し方、箏の基礎的な奏法、読譜の仕方などの技能を身に付けて演奏している。

IV 本題材における言語活動

- ・箏で音を出したいながら旋律をつくる活動を通して感じ取った、曲種に応じた発声や言葉の抑揚、リズムや平調子による旋律などの特徴を他者に音楽に関する言葉を用いて伝える。《感受・表現》
- ・自分のつくった旋律の工夫点などについて、他者に音楽に関する言葉を用いて伝える。《解釈・説明》
- ・旋律づくりについての構想を立て実践し、評価・改善する。《構想・実践》

V 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
<ul style="list-style-type: none">・言葉や箏の音色や奏法、平調子による旋律、構成などの特徴を生かして、表現を工夫して旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。(創作)・箏の音色や奏法に関心をもち、自分のつくった旋律を、奏法を理解して演奏し、うたう学習に主体的に取り組もうとしている。(表現)	<ul style="list-style-type: none">・言葉や箏の音色、平調子による旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。(創作と表現に共通)・知覚・感受しながら、言葉の抑揚やリズム、箏の音色や奏法、平調子による旋律、構成などの特徴を生かして音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。(創作)・知覚・感受しながら、曲種に応じた発声、箏の音色や奏法、平調子による旋律、構成などの特徴を生かして音楽表現を工夫し、自分のつくった旋律をどのように演奏するかについて思いや意図をもっている。(表現)	<ul style="list-style-type: none">・言葉の抑揚やリズム、箏の奏法、平調子による旋律、構成などの特徴を生かした音楽表現をするために必要な、音の組み合わせ方、記譜の仕方などの技能を身に付けて簡単な旋律をつくっている。(創作)・曲種に応じた発声や箏の特徴を捉えた音楽表現をするために必要な、声の出し方、箏の基礎的な奏法、読譜の仕方などの技能を身に付けて演奏している。(表現)

VI 指導と評価の計画 (6時間扱い・・・本時4/6)

題材	指導目標	主な学習活動	時数	【言語活動系統表】との関連
旋律をつくって箏を奏でながらうたおう	<p>①平調子の音階の特徴, 言葉の抑揚やリズムなどに関心を持ち, 音楽表現を工夫して簡単な旋律をつくる学習に主体的に取り組ませる。</p> <p>②平調子による音階を知覚し, その働きが生み出す特質や雰囲気を知覚・感受しながら, 言葉の抑揚やリズムなどを感じ取り, 平調子の特徴を生かして音楽表現を工夫し, どのような旋律をつくるかについて思いや意図をもたせる。</p> <p>③言葉の抑揚やリズム, 平調子の特徴を生かした音楽表現をするために必要な音の組み合わせ方, 記譜の仕方などの技能を身に付けて簡単な旋律をつくることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの俳句を音読し, 言葉の抑揚やリズムを感じ取り, 音の高低やリズムをワークシートに記入する。 ・自分の選択した俳句を基に, 平調子を用いて旋律をつくる。 ・曲種に応じた発声や言葉の抑揚, リズムや平調子による旋律などの特徴を生かした音楽表現を工夫し, 箏で音を出して確かめたり, うたったりしながら, 自分なりの思いや意図をもって自分の選択した俳句にふさわしい旋律をつくる。 	3	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">【感受・表現】</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">【解釈・説明】</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">【構想・実践】</div>
	<p>④曲種に応じた発声, 言葉の抑揚やリズム, 構成などに関心を持ち, それらをいかして音楽表現する学習に主体的に取り組ませる。</p> <p>⑤知覚・感受しながら, 曲種に応じた発声, 言葉の抑揚やリズム, 平調子の音階の特徴を生かした旋律, 構成などを理解して, それらを生かした音楽表現を工夫し, どのように演奏するかについて思いや意図をもたせる。</p> <p>⑥曲種に応じた発声, 言葉の抑揚やリズム, 構成を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分がつくった旋律を箏で演奏したいながら, 音楽表現の工夫について考える。 ・発表会(全体)を行う。 ・自分のつくった旋律の特徴や, どのような思いや意図があって創作したのかなどを説明してから演奏する。 	3 本時 1/3	

観点	指導目標	評価方法	Aのキーワード・具体例	評価規準	Cへの手立て
音楽への関心・意欲・態度	①	観察 ワークシート	平調子の音階の特徴や言葉の抑揚やリズムなどに関心をもち、 <u>進んで旋律を複数</u> つくり、ワークシートに記入するとともに、 <u>他者にそれぞれの旋律の意図や思いを説明</u> している。	平調子の音階の特徴や、言葉の抑揚やリズムなどに関心をもち、 <u>進んで</u> 旋律をつくり、ワークシートに記入している。	平調子の音階の特徴や、言葉の抑揚、リズムについて補足説明するなどして、学習対象に関心をもちさせる。 生徒のつくった旋律のよいところなどを褒め、自信をもって演奏できるように意識を高める。
	④		曲種に応じた発声、言葉の抑揚やリズムなどに関心をもち、自分のつくった旋律を <u>ふさわしい演奏</u> になるべく、課題をもって繰り返し演奏し、他者に自分の演奏について <u>自分から感想を求め</u> るとともに、他者の演奏について気付いたことを <u>進んで</u> 述べている。	曲種に応じた発声、言葉の抑揚やリズムなどに関心をもち、自分のつくった旋律を繰り返し演奏し、他者の述べる自分の演奏についての感想に反応するとともに、他者の演奏について気付いたことを述べている。	
音楽表現の創意工夫	②	ワークシート 作品	平調子による音階を知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、言葉の抑揚やリズムと音の <u>つながり方が合うようにする</u> などの音楽表現を工夫し、どのような旋律をつくるかの思いや意図についてワークシートに <u>自分なりの根拠を基に明確</u> に記入している。	平調子による音階を知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、平調子を基に、言葉の抑揚やリズムなどを感じ取って音楽表現を工夫し、どのような旋律をつくるかの思いや意図をワークシートに記入している。	平調子の音階の構成音が理解できていない生徒には、箏を用いて実際に音を聴かせながら確認する。また、どのような旋律をつくるか、どのように演奏するかについての構想や表現の工夫が浮かばない生徒には、いくつか構成音のつながりを示す等、創作や演奏の手掛かりとする。
	⑤		知覚・感受しながら、曲種に応じた発声、言葉の抑揚やリズム、平調子の音階の特徴を生かした旋律、構成などを理解して、それらを生かした音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについての思いや意図を、ワークシートに <u>自分なりの根拠を基に明確</u> に記入している。	知覚・感受しながら、曲種に応じた発声、言葉の抑揚やリズム、平調子の音階の特徴を生かした旋律、構成などを理解して、それらを生かした音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについての思いや意図をワークシートに記入している。	
音楽表現の技能	③	作品 演奏	言葉の抑揚やリズム、平調子の特徴を生かした音楽表現をするために必要な音の組み合わせや工夫の仕方が <u>適切</u> で、それを <u>正確</u> に記譜することができ、それが作品に表れている。	歌唱表現を想定した音のつながり方で、言葉の抑揚やリズム、平調子の特徴を生かした旋律をつくり、それらを概ね記譜することができるとともに、作品に表れている。	自分の創作した曲の思いや意図を基にふさわしい表現になるように箏を演奏しうたうための技能の留意点をいくつか例示し、意識させる。また、場合によっては、教師が演奏し、参考にさせる。
	⑥		曲種に応じた発声、言葉の抑揚やリズム、構成を生かした音楽表現をするために必要な技能を <u>確実</u> に身に付けて箏を演奏しうたっている。	曲種に応じた発声、言葉の抑揚やリズム、構成を生かした音楽表現をするために必要な技能を概ね身に付けて箏を演奏しうたっている。	
鑑賞の能力					

Ⅶ 生徒の実態について

本学級の生徒は、学習時における発話等も積極的で、自分なりの考えを述べることのできる生徒が多い。また、知覚・感受したことを進んで交流し、表現活動では、どのように表すかについて自分なりの思いや意図をもって音楽表現の創意工夫に取り組もうとする生徒が多いなど、音楽への関心・意欲・態度が高い。歌唱の活動では、題材「混声合唱の豊かな響きを味わおう」で、混声合唱曲「心の中にきらめいて」、「君とみた海」を教材に、〔共通事項〕を学習の支えとして、歌詞の内容や曲想、混声合唱にふさわしい発声と言葉の特性、声部の役割や全体の響きについて、それぞれ表現を工夫して歌う学習に意欲的に取り組んだ。器楽の活動では、初めて箏を演奏するので、創作の活動と関連付けながら、箏の特徴を捉えた音楽表現をするために必要な箏の基礎的な奏法、読譜の仕方などの技能についても身に付けさせたい。創作の活動については、1年時に、題材「旋律をつくって奏しよう」で5音音階を用いて旋律を創作し、ソプラノリコーダーで演奏する学習に取り組んでいる。

Ⅷ 本時案

1 題材 「旋律をつくって箏を奏でながらうたおう」

2 学習目標

・箏の音色や奏法に関心を持ち、自分のつくった旋律を、奏法を理解して演奏し、うたう学習に主体的に取り組むことができる。 【音楽への関心・意欲・態度】

・知覚・感受しながら、箏の音色や奏法、平調子による旋律、構成などの特徴を生かして音楽表現を工夫し、自分のつくった旋律をどのように演奏するかについて思いや意図をもつことができる。 【音楽表現の創意工夫】

3 学習の展開

○学習活動	○教師のかかわりと◆留意点	○評価規準と（評価方法）
○前時までの学習内容を振り返る。 ○本時の学習目標を把握する。	○前時までの学習についてワークシートをもとに振り返らせる。 ○本時の学習目標を提示し、本時の学習の見通しをもたせる。	
自分がつくった旋律を演奏しながら、ふさわしい表現の工夫をしよう		
○ワークシートに目標を記入する。	○目標はできるだけ具体的に記入するように指示する。	
○自分がつくった旋律を実際に演奏しながら、ふさわしい箏の音色や奏法、発声や表現の工夫について考える。 ○ふさわしい箏の音色や奏法、発声や工夫していることを音楽に関する言葉や演奏で説明し合い、交流する。 ○表現を工夫したことや、どのように演奏するかについての思いや意図をワークシートに書き、演奏に取り組む。	○自分がつくった旋律を演奏し、箏の特徴や言葉の抑揚やリズムを知覚・感受しながら、自分が選んだ俳句にふさわしい箏の音色や奏法、発声や表現の工夫について考えさせる。 ◆声の出し方、箏の奏法、姿勢を確認する。 ○それぞれのつくった旋律について、交流する。 ◆自分のつくった旋律について説明しやすいように、音楽に関する言葉をいくつか例示した上で交流させる。 ○交流を通して深めたふさわしい表現の工夫やどのように演奏するかについての思いや意図をワークシートにできるだけ具体的に書かせる。 ◆机間指導し、ワークシートへのまとめ方についてアドバイスする。	○曲種に応じた発声、言葉の抑揚やリズムなどに関心を持ち、自分のつくった旋律を繰り返し演奏し、他者の述べる自分の演奏についての感想に反応するとともに、他者の演奏について気付いたことを述べている。 【音楽への関心・意欲・態度】（観察） ○知覚・感受しながら、曲種に応じた発声、言葉の抑揚やリズム、平調子の音階の特徴を生かした旋律、構成などを理解して、それらを生かした音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについての思いや意図をワークシートに記入している。 【音楽表現の創意工夫】（ワークシート）
○自己評価をし、本時のまとめをする。	○ワークシートに本時の学習の振り返りを記入させる。	